

健康な歯でいつまでも元気に

10月28日、市は市役所福祉事務所で「第6回朝来市高齢者歯のコンクール」を行いました。

※8020運動の一環として、65歳以上で、自分の歯が20本以上あり、虫歯があっても処置している人を募集したものです。29人からの応募があり、当日は、歯科医が参加者の歯の状態を調べ、優秀な人を表彰しました。

大賞にあたる朝来市長賞を受賞したのは繁田優さん77歳(高生田区)。すべて自分の歯で虫歯は1本もありません。「1日3回歯磨きをしています。これから

も歯を大切にし、健康で長生きしたいです。」と笑顔で話されました。

※80歳になっても自分の歯を20本保つ運動



朝来市長賞を受賞した繁田優さん

救助資材搭載の消防車両が市消防団に

10月22日、市役所朝来市庁舎前で小型ポンプ付積載車の受渡式を行いました。

車両は消防庁から朝来市へ無償貸与されたもので、AED(自動体外式除細動器)やエンジンカッター、チェーンソー、発電機などが搭載。今後は朝来支団特設分団が消防活動に活用する予定です。

受け取った団員は、迅速で的確な活動が行えるよう、資材の位置と数量を確認したり、実際に機材を動かして使用方法を確かめていました。



荷物が取り出しやすいよう、車体後部の扉が上向きに開きます

圧痕が付着していることが発見されたことから、弥生土器が使用された弥生時代は、農耕が行われた時代として認識されることになったのです。

このように、弥生時代が「農耕の時代」として認識されて後、新たな調査研究によって伝来当初から堰と水路を伴う灌漑方式や畦畔で区画された水田や十分に機能分化した農具など、高度で完成されたシステムとして伝わったことがわかってきました。

◆朝来市における農耕技術の広がり

この朝来の地にも農耕技術が広がった足跡を見ることが出来ます。片引遺跡(和田山町



太型蛤刃石斧



石包丁

筒江)は朝来市における最古の弥生集落と考えられています。この片引遺跡のムラで生活を営んだ人々は、伐採用斧として知られる太型蛤刃石斧、イネの穂摘み具と思われる石包丁などの石器類などが出土していることから、農耕技術を獲得していたことがわかります。

その後、この片引遺跡に続いて安井遺跡(和田山町安井)、ムクノ木遺跡(和田山町久世田)、高瀬遺跡(和田山町高瀬)など、続々と農耕技術を受け入れたムラが現れてくるのです。

(市教育委員会社会教育課)

※畦畔：田畑の端にあり通行路などに使われる細長い土地部分